

## 第2章 計画の基本的考え方

### 1 . 計画策定の目的

---

海津市地域福祉計画は、「地域の助け合いによる福祉（地域福祉）」ができる仕組みをつくる計画です。人と人とのつながりを大事にし、地域の持てる力を強め、生かしながら、助け合い、お互いを認めながら支え合う地域づくりをめざすものです。

そのために、市民・福祉団体・行政等がそれぞれの役割の中で、お互いに力を合わせる関係をつくり、協働しながら「地域ぐるみの福祉」の推進を図ることを目的として策定します。

### 2 . 計画の位置づけ

---

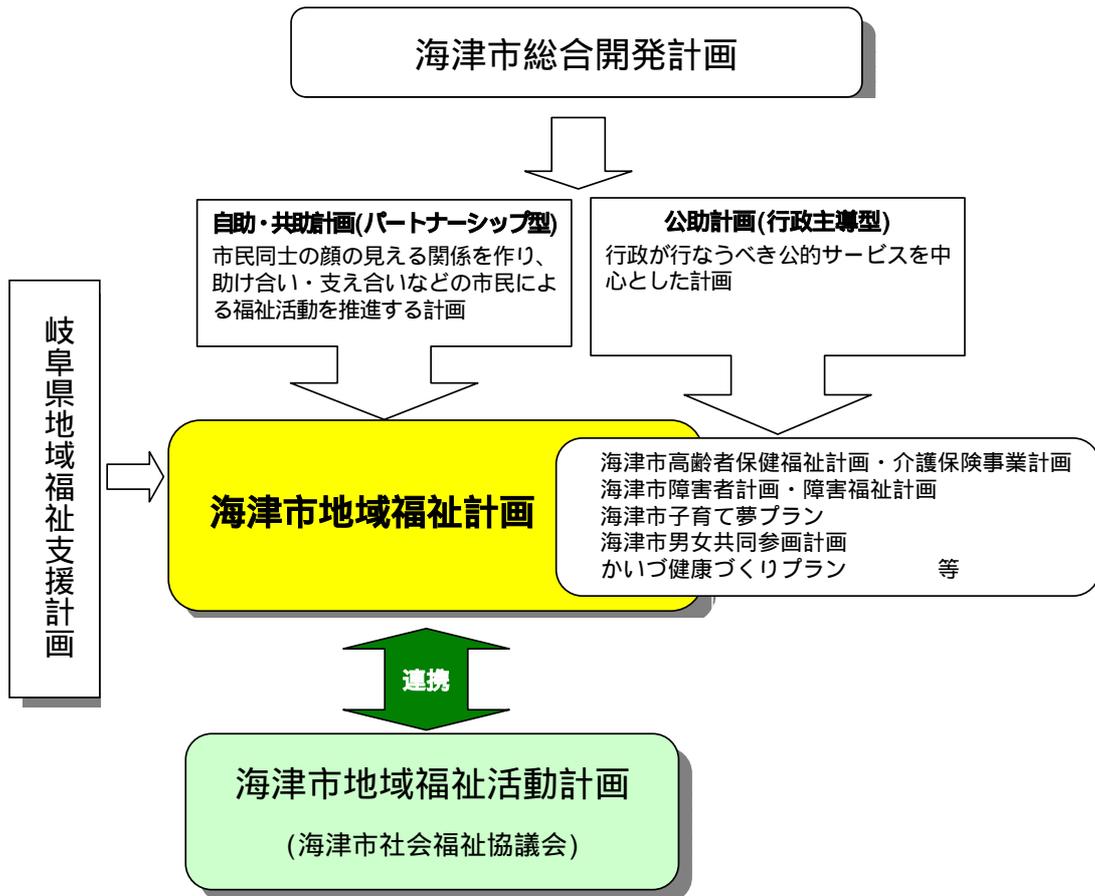
#### （1）根拠法令及び他の関連計画との関係

本計画は、「海津市総合開発計画」を上位計画とした個別計画であり、社会福祉法第107条に基づく「市町村地域福祉計画」として位置づけられます。

また、策定にあたっては、本市の保健福祉分野をはじめとする各種個別計画や国・県の関連する計画との整合性を図ります。

#### （2）地域福祉活動計画（海津市社会福祉協議会の計画）との関係

「地域福祉活動計画」は、海津市社会福祉協議会が住民等の福祉活動計画として策定する計画です。「地域福祉計画」の理念の実現を目指し、具体的な地域活動を促進していく行動計画であり、相互に連携して、地域福祉の推進を図っていきます。

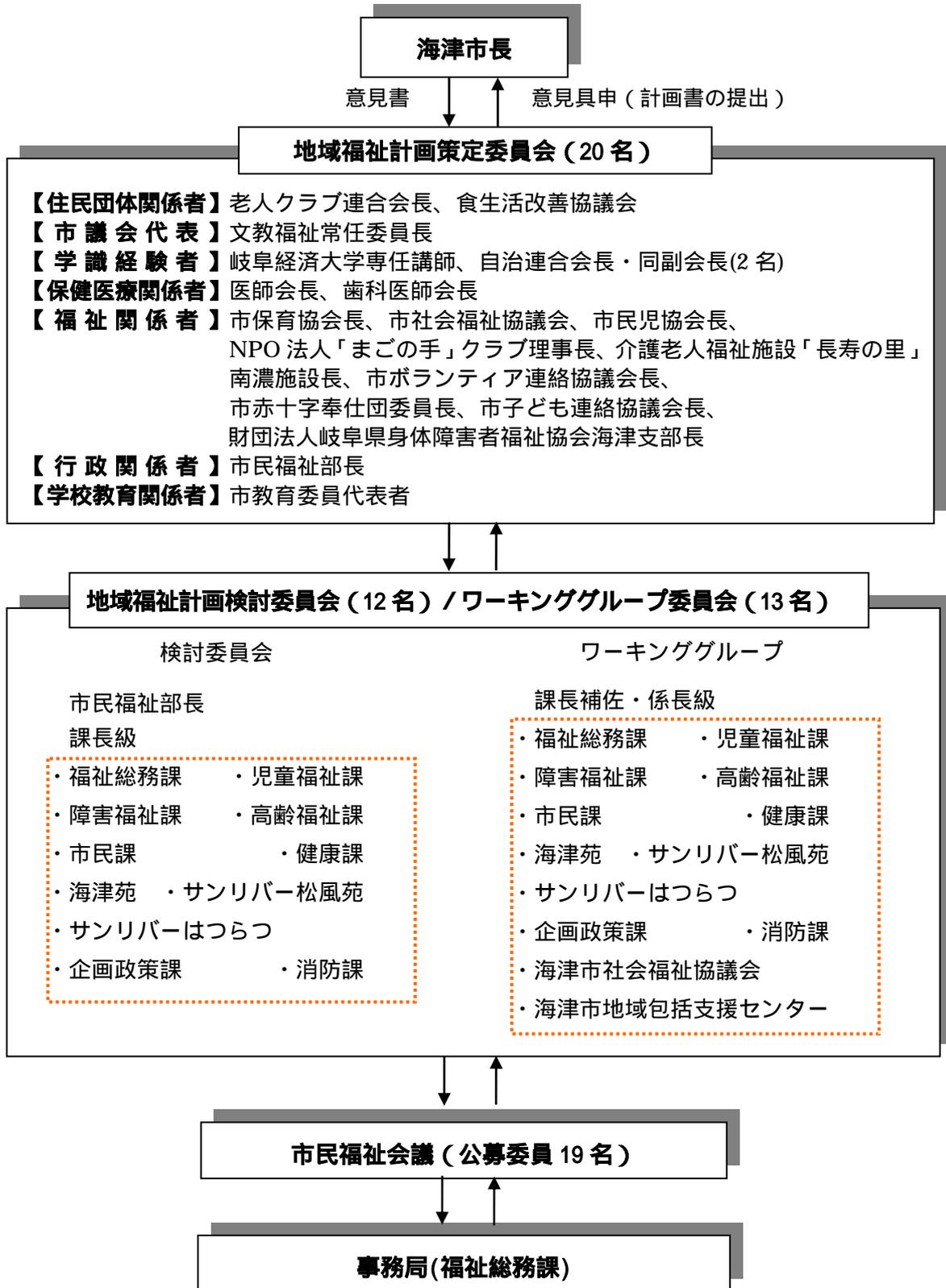


### 3 . 計画の期間

海津市地域福祉計画の計画期間は、平成 20 年度から平成 24 年度までの 5 年間とし、社会情勢の変化や利用者のニーズに対応するため、必要に応じて計画の見直しを行います。

## 4 . 計画の策定体制と経緯

### (1) 計画の策定体制



## (2) 計画策定への市民参加

計画の策定に当たっては、市民の意見・要望を計画に反映させることを重視し、18歳以上の市民へのアンケート調査の実施、市民公募委員による市民福祉会議の開催、ボランティア協議会、民生委員児童委員協議会、岐阜県立海津明誠高等学校生徒の皆さんによるワークショップ会議を実施しました。

### 市民アンケート調査の実施

「地域とのかかわり」「地域組織等への参加・活動状況」「ボランティア活動」「福祉サービスに関する認知度・利用状況やこれからの福祉のあり方」等についての市民の意識を把握するため、18歳以上の市民延べ2,000人を無作為抽出して、アンケート調査を実施しました。

### 市民福祉会議の開催

計画策定に参加する市民を公募し、19名の公募委員で構成された市民福祉会議を4回、開催しました。市民福祉会議は、年代別に3グループに分かれ、公募委員と市職員によるワークショップ形式で行いました。

会議の内容は、まず「海津市の現状」を参加者が共有するために、海津市の良いところ、悪いところを出し合い、それを踏まえてこうであってほしい海津市の理想像（将来像）を話し合いました。次に、海津市が理想のまちになるために、自助（個人や家庭）、共助（地域）、公助（行政）のそれぞれの立場からできる取り組みを考えました。



### ボランティア連絡協議会ワークショップ会議

日頃からボランティア活動に関わっている方を対象として、地域福祉計画の理解・浸透を図り、実効性をより高めていくため、計画作りの一環として、ワークショップ方式での会議を実施しました。

ボランティア連絡協議会に登録しているボランティアの方から48名の参加を得て、3グループに分け、ワークショップを3回開催しました。



### 民生委員児童委員協議会ワークショップ会議

地域福祉の担い手として、日頃から活動されている民生委員の方の協力を得て、ワークショップ方式での会議を実施しました。

海津地区6名、平田地区6名、南濃地区7名の民生委員の方の参加を得て、各地区ごとの3グループに分け、ワークショップを3回開催しました。



### 岐阜県立海津明誠高等学校生徒によるワークショップ会議

海津市の次代を担う若い世代の意識を把握するため、生活福祉科を擁する岐阜県立海津明誠高等学校生徒の皆さんの協力を得て、ワークショップ方式での会議を実施しました。

1年生から3年生まで、生活福祉科15名、普通科6名、情報処理科1名の計22名が2グループに分かれて、ワークショップを3回実施しました。

